



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第187号 2017年10月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成29年9月30日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

「住まいの点検」実施中

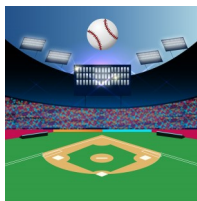
「生活の場」「くつろぎの場」として、快適で安心して暮らせる住まいは、誰もが望むところですが、住まいは、適切なメンテナンスを怠り、放っておいた場合は当然のことながら、生活していくうちに確実に老朽化します。住まいの老朽化を少しでも遅らせ、良好な居住空間をできるだけ長く維持するには、常日頃から、こまめに点検をして手入れをすることが最良の方法です。毎年勢いを増す、雨、台風、突風に備えて、この「すまい造りメール」をご愛読の皆様を対象に住まいの点検を実施しています。雨漏りはしていないか、軒先に傷みはないか、屋根の外壁にクラックはないかを点検し、適切なメンテナンスをさせていただきます。是非この機会をご利用ください。



Amappoに★を付けちゃいました!!
(追浜の街の非公認キャラクター)

追浜DeNA

追浜公園の整備工事が今秋から始まります。横須賀スタジアムに隣接する横浜DeNAベイスターズの練習グラウンドと選手寮、室内練習場が2019年3月に完成する予定です。練習グラウンドの1塁側には選手のプレーを間近に見ることができる見学広場ができます。また、11月25日(土)にファンフェスティバルが横須賀スタジアムで初めて開催されます。これから追浜の街は青が似合う街になります。



Amappoに★を付けちゃいました!!
(追浜の街の非公認キャラクター)

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. Next50
創刊 2002.4.1.

よこすか文学館

横須賀に生まれ育ち、広島海軍兵学校で終戦を迎え、その後、短歌の道に精進し、数々の作品を残した島田修二についてご紹介します。

少年にて憧れたりき
子規よりもその剛友の秋山真之

島田修二

第十回(海軍兵学校詠歌③)

最後の歌集『行路』(2000年)所収。島田が海軍兵学校に在籍した期間は半年に過ぎませんが、その生徒であったことすなわち海軍軍人であったことは、終生、大きな意味を持ち続け、関連する歌を何首も詠んでいます。少年時代に文豪正岡「子規」よりも憧れた「秋山真之」は兵学校17期、日露戦争時の連合艦隊先任参謀で、日本海海戦をはじめとする主だった艦隊作戦は彼の立案だったと言われていいます。司馬遼太郎の名作『坂の上の雲』の中心人物としても著名。



洗足学園中学高校教諭
中島正二

トイレをリフォームするときどのタイプにするか機種選びのポイントをご紹介します。(TOTO編)

最新式の便器は、1回当たりの洗浄水量が3.8L(ネオレスト床排水の場合)と15年前の13.0Lと比較して大幅に節水効果があります。さらに、汚れがつきにくく、除菌する効果のある材質を使用することで、清掃もラクになっています。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

ネオレストDH



便器とタンクが一体化しているタイプ

レストパルF



壁を使いタンクと小物が収納できるタイプ

ピュアレストEX



従来通りの便器とタンクが分かれているタイプ

横須賀製鉄所物語（肥田浜五郎）〈39〉

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

横須賀製鉄所の建設には、各方面からの反対がありました。外国ではイギリス、討幕運動の中心であった薩摩・長州を始めとする各藩、それだけではなく幕府内部からも「財政窮乏の折から巨額の資金が支出できるのか」「建設資金をもって討幕勢力に対応すべきだ」との意見が出ました、そうした中幕臣である肥田浜五郎は「建設位置について横須賀ではなく江戸湾のもっと奥に建設すべき」との意見を執拗に主張し続けました。その肥田浜五郎とはどのような人物だったのでしょうか。

1830年（文政13年）伊豆八幡村（現在の伊東市）に生まれ、葦山代官江川英龍（太郎左衛門）に仕えます、彼が優れた才能を発揮したので長崎海軍伝習所に派遣されます。そして、1860年（万延元年）には日米修好通商条約の批准書交換のため正使の乗船する「ポーハタン号」の随伴艦として「威臨丸」が派遣されることになり、肥田浜五郎は蒸気方として選ばれ渡米します。帰国後には、幕府の大型船の建造禁止の解除により石川島で大型船の建造に参加しますが、見事に失敗し幕府は大型船建造のため、先進国で技術の伝習と機械の購入のため、肥田浜五郎をオランダに派遣します。しかし、その直後には幕府はフランスの技術援助により横須賀に製鉄所を建設することとなり、フランスに派遣された幕府のものと協力することになりました。このときオランダで買い付けたスチームハンマー6基のうち3トン、0.5トンの2基がヴェルニー記念館に展示されています。しかし、その後尊王攘夷運動が激化し、徳川三百年の歴史は幕を閉じ職を失い伊豆に戻ります。しかし、1869年（明治2年）明治新政府から出仕を求められ民部省に勤務し、勤務場所が変更する中、横須賀製鉄所勤務となります。そして、『横須賀海軍船廠史』の明治三年紀によると「11月肥田土木工部少丞二任ジラレ山尾工部権大丞ト共ニ製鉄所ノ事務ヲ總理ス」とあり製鉄所の責任者になりました。在職中には明治4年に明治新政府は製鉄所を造船所と名称を改め、造船所開業式の実施・造船技術者養成のための「鑿舎」の運営・明治天皇の行幸啓行の受け入れなど多くの事業を実施し、1876年（明治9年）に造船所を退職し、1886年（明治19年）には海軍機技総監となり日本海軍の機関部門のトップに昇進します。同年に宮内庁御料局が新設されその局長となります。こうした中でも日本鉄道会社の創立や、第15銀行の設立にも参加するなど、旧幕臣としては異例の出世をしますが、1889年（明治22年）藤枝駅で列車から転落し死亡しました。当時列車には手洗いがなかったので駅で済ませたところ列車が入り、急いで乗車したが転落したもので、その後列車には洗面所、手洗いが設置されました。肥田浜五郎は横須賀製鉄所に関連した異例の人といえるでしょう。また明治新政府には人材が枯渇していたから異例の出世ができたものと思います。



横須賀製鉄所の模型

（元横須賀市助役 井上吉隆）

よこすか産業まつり

よこすか産業まつりに2009年に初めて出展して以来、今年で9年目となります。サイコロキャラメル空き箱を使い、自分でデザインした住まいを配置して、みんなが住みやすいように街づくりをするペーパークラフト教室「みんなde街づくり」を開催しています。「家族でゆったりと、みんなで楽しく、夢のある『すまい造り』を、自分で考え、手を動かし、完成する」という体験型アトラクションのお手伝いをして、「ルールを守って、思いやりを持った気持ちの良いコミュニケーション」を心掛けることをコンセプトにしています。

3年毎にテーマを変え、2009～11シーズンは、架空の街「*My little hometown*」、また、2012～14シーズンは、三浦半島をイメージした「*MEWLAND*」をそれぞれデザインしていただきました。そして、2015～17シーズンは、鋳入れ式から150周年を迎えた横須賀製鉄所周辺の過去、現在、未来の街「*ARSENAL D' IOKOSKA*」をデザインしていただいています。今年はこのシリーズの最後の年ですので、どんな街が完成するかとても楽しみです。

毎年「建替え」のために訪れる小さなお客様も、すっかり大きくなって、今ではスタッフとして時々手伝ってもらっています。ありがたいことです。時が立つのは早いですね。

11月11日(土)・12日(日)に三笠公園で開催される「よこすか産業まつり」に、是非お立ち寄りください。

お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2017」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索